窓辺の恋

いとおき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

窓辺の恋

【Nコード】

N7267Z

【作者名】

いとおき

【あらすじ】

とある世界のとある街、澄んだ冬の夜のこと。ここへ来た窓が開けられた。

窓辺で空を見上げるちいさな女の子と静やかな恋の話。

壁際のスタンドライトがひとつ灯るだけの部屋で、女の子は冷えた窓に手をつけていきおいよく開けはなつた。

とたんに冷たくこごえた冬の風が、ぴりりと体をなでて部屋の中へ入りこんできたが、女の子は気にせず窓に身を乗りだした。見上げた空にはささやき声を交わしあうような静やかさで、星がまたたいている。冬の空は空気がとがっているぶん、夏の夜よりずっと澄んで見えた。

「あの中のひとつにピーターの住む国があるのかしら？」
空にまたたく星にも負けずに、秘めやかな輝きを瞳にやどして女の子はひとりごちる。

まだ幼い女の子には、片思いの相手がいた。

幼い恋の相手は、空を飛び、老いを知らず、永遠の自由を夢の世界で謳歌（おうか）する、物語の中に住む男の子だった。

けれどまだ年幼くあどけない心の女の子には、彼が女の子の住む世界には存在しない事実など想像の外側の話だったのだ。

夢見る心で空を見つめる眼差しはそれでも真剣だ。

「わたし、待ってる。毎日窓を開けて待ってるからね。だからきつと、むかえに来て」

最後にひっそりと、熱を込めて男の子の名前を女の子はささやいた。

冷えびえとした夜の窓辺に、あたたかで、けれどほのさびしい余韻を残してにじむように声は溶けた。

手を組み合わせて祈ってみても、女の子が開けはなした窓辺に思い人が降りたつことはない。彼は今も物語の中、永遠に少年の姿で空をわたり、夢の国の中で自由に生きている。

くしゅん、と女の子がかわいらしくくしゃみをした。冬の夜は悲

しいくらい冷たい。ちいさな女の子の体など、またたく間にこごえさせてしまふ。

「今日はもうおやすみなさい。明日、またね」

最後にもう一度、おまじないのように手を組み合わせて祈りをささげ、女の子は乗り出した体を部屋の中へゆっくり引っこめた。なごり惜しく振り返って、ベッドへ戻る女の子の後を追うように、閉じた窓から最後のこごえた風がすべりこんで、女の子の細い体をベッドの上へと押し上げる。

女の子はまだ知らないままでいる。

彼女の思い人が窓辺に降り立ち、そのちいさな体を連れ去っていく。来る日の来ないことを。毎夜同じ時刻に冷たい窓辺でたよりなく空を見つめる女の子を見つけて、家路をたどる働き者の少年が、強く気持ちひかれるまま恋に落ちた事実を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7267z/>

窓辺の恋

2011年12月24日02時56分発行